

局神の超越性と自然的存在たる人間の絶對的異質性に基くと云はなければならぬ。

教学が教義を基として組織せられねばならぬものである限り教義に対する承認と、学問的要求の満足という二つの要素が満

本門本尊の在り方

一尊一士正境論

竹 田 日 潤

一、觀本鈔(九四〇)『觀心本尊鈔の略称』の驚動耳目とは何か。五重三段説示の理由如何。末文(九四八)の讓與とは何を指すか等は、皆一尊四士必要論の聖語であるから『觀本鈔に一尊四士なし』と公言してゐる某大学匠の主張は誤つてゐる。不肖日潤は真蹟写真版対照の觀本鈔全文を真読で一時間廿分で檀徒の法事に拜んでゐる。毎朝夕の勤行にも全読し、全文の素読二千回以上に及んでゐる。五字の金塊の内に此珠を裏み、との御聖意をば『五字の袋の内に』と読ませ、文王を成王と悪訂正し本師を本時と読ませてゐるが如き印刷物の觀本鈔は百万年拜んでも御聖意は断じて爪の垢程すらも判かるものではない。中山の二具十休、玉沢の一尊四士国宝画像等は觀本鈔の文上通り正

たされなければならぬ。佛教の宗学に於て、学としての教学はいかなる方法をとるべきかの課題は、キリスト教と対比して見た場合、キリスト教に於て見出されない「法」の問題が、一つの重要な手がかりを示していると言ふことが出来る。

直に実行されたものであるが、文底の御聖意は一尊一士であらねばならない。

二、百界千如も十界互具も、支文止前四卷等に説く所であつて、非情の国土世間不顯、草木不成佛、木回本尊無救済の劣法であるとは、觀本鈔の序文に於て大聖人がしつこい程懇説してゐられるから『十界本尊の曼荼羅』との如き不完全極まる不成佛の惡熟語は、聖滅後の人師の創作であらねばならない。且つ『十界曼荼羅を以て本尊とされた』と云ふ大聖人の実跡もなく又其文証としても御眞蹟遺文中には唯の一語も無いのである。且つ本門八品中に於ても無経証であり、釈尊の金言無しと云ふ実狀だ。宗教の魂たるべき本尊が日蓮に於て斯くも不意なものであらうか。六百五十年間の学匠上反省せよ。二処三会の靈山顯現其物が一幅の十界曼荼羅本尊であるとか、或は起顯竟其物が十界本尊であるとの如き無宗学、無智の無信心をさらけ出すやうでは不憫の至りである。但し、神力別付を実行化し、本門成境の聖境に於て本門授戒の証として『本門題目の曼荼羅は』是非共なければならぬものである。其経証は教菩薩法佛所護

念の妙法蓮花經であつて、我等法花信者は臨終の時に棺桶の中へ入れて頂いて生々世々に値遇し頂戴すべき神力別付属の冠曼荼羅であらねばならない。観本鈔(九四〇)の取意に曰く、其付属式に於ける本門本尊佛より本門題目付属式の爲体たるや本師釈尊は娑婆上の宝塔にして空に居し玉ひ塔中別付の妙法蓮花經也。塔中の左右南北の上下には釈迦佛多宝佛まします(一〇三八、一四七八)乃至如斯き本化四大菩薩脇士たる釈迦一佛本尊は在世五十餘年には無之し、但だ本門八品時に限る云云との御聖意は、正しく教菩薩法佛所護念本門題目の曼荼羅の聖証であらねばならない。観本鈔に本尊付属などは断じてあり得ないのである。勿論本經にも本尊付属などはない。本尊佛たる良医其人を誰人へ付属せんとするか。それは、陛下をソレンへ付属せんとするが如きものである。稻田海素恩師祝下御鑑定約百四十幅の大聖人御眞筆曼荼羅と称するものは一幅も残らず全部共似て非なる偽筆偽判だ!!御花押中第一番に最も似てゐるのは文永十一年の茂原曼荼羅であらう。臨滅度時、楠板曼荼羅、奉獻曼荼羅等の御花押は誤りも甚だしいものである。御花押は文永建治弘安とも御一生涯ボロンの一字であり、ブハ、ルウ、ウーウンの四字から構成されてゐる事を弁へぬから鑑定眼は零に歸するのである。ホンマ物は皆臨終の時に頂戴して行つてゐる筈である。残して行く者は法花を捨てた事になるのである。似て非なる書写物が百数十幅現存するのみ!!

三、神国玉鈔(一三六四)、妙法尼抄(一七八〇)、忘持經鈔(二三八五)等の御眞蹟等に依れば、大聖人御自身の実行本尊は、佐前在島身延とも無脇士の釈迦一佛本尊であつた。單なる無脇士は始覺佛に過ぎぬけれども、大聖人御自身が地涌の上首上行日蓮として、四大菩薩の代表者となつて實質上の脇士であつたから、所謂一尊一土であつたのである。脇士像は本尊佛の正中を犯して其直前に奉安すべきものではない。

四、観本鈔(九四七)に於ける『妙法五字並本門本尊』との金言は、五字と本尊との間に並の字があるから『五字即本尊』でないこと云ふ事は御妙判全部共通の一貫的根本思想であらねばならない。観本鈔(九四四)には『良薬とは妙法五字也』とあるから『良薬たる妙法五字は本尊佛の宝号也、本尊の体也』との如き口伝禁物の御義口伝式脱線宗学の悪知識は絶対禁物であらねばならない。

五、久成本尊佛の實質たる真理と智慧と慈悲との結晶せる要法として南無妙法蓮花經を信唱する事に依つて、能化の父本尊佛と、所化の長男上行日蓮とが、所化の末子たる我等地涌菩薩の唱題者の頭べに宿り住し給ひ、以て我等凡夫も本佛本化に等しき親子同体同心となり、父なる能化本尊佛御一念の三千具足三種世間たる本門題目の眞理と慈悲と智慧とを受持し相統する事に依つて、所化なる我等は本佛の愛子として凡夫己心の三千具足三種世間たる妙法五字の大功德を現世に於て自然に讓與せ

られ、斯くして法界大の大人格具現者となつてこそ、我等佛子は無始無終の至孝第一、三世常住の即身成佛者となるのである如斯き理智慈具足是好良薬の本門題目をば上行日蓮を通して我等は久成本尊佛から神力別付されたのであるから、末法初期の

我等衆生は、上行日蓮一士の久遠積迦一尊の立像佛を正境本尊と致さぬとすれば、末代迄もの大恥をさらすべき普同不知恩墮地獄の愚者となるのである。

現代における日蓮主義の

進路

高 木 大 幹

私は昭和十三年渡支、北京の中国の高校で日語を教えて居たが、十八年頃の或日一友人が重慶側の宣伝文書を持ち込んで諷訳してくれという。その中で私が注目し且つ心中驚ろきの声をあげたことは、彼等が日本国民の万世一系、天壤無窮の国体を狂信的に信じ、それにより八紘一宇を呼号しておることを徹底して逆宣伝の材料にし、それにより米国の政界首脳及び民衆を完全に操縦し、且つそれによる將來の動向に十分な自信を持っている態度であつた。私の驚いたというのはかゝる思想を煽動した人こそ故田中智学氏等の日蓮主義者で、従つて日蓮教学に果してそうした思想が本質的にある否かという責任問題であつた。

私は太平洋戦争の開戦に反対し、又敗戦をその前夜に豫言した。廿年私は召集を受けた時、民主主義、自由主義を誹謗するのは天に唾を吐くものである速に講和すべく努力されよと先輩河合陟明氏に書信を送つた。

私は明治に於て田中智学氏が日蓮主義を高揚した功績を高く評価する。併し此の国体学は受容し難きものであつた。それは徳川封建制を打破して日本が速に国家的統一を遂げる要ある時期には一分の存在理由があるが、多分に迎合的なものであつた私見を以てすれば日蓮聖人は皇孫養正の建国の理想により、法華の家たる皇室が真言等についたのを批判して、地獄に墮つ、魚糞となる等と言ひ、立正安国論を北條氏に贈り、国を諷曉した。然るに、篤敬三宝、三宝の奴の子孫が神聖にして侵すべからずとなつた時、壽量品の教相を以て万世一系に擬する如き俗論に墮したのもあつたのは寧ろ阿ゆの佞臣であり、仏法を売るものであつた。日蓮聖人は、日蓮は旃陀羅が子なりと言ひ王の命ならば身は従ひ参らすとも心は従ひ奉るべからずと言つた様に徹底した基本人権、人格の尊嚴の首唱者であつて、敢て